

建設の機械化

1990.11

No.489



| | |
|--------------------------------------|----|
| ◆巻頭言 真に豊かな社会実現のための建設業の役割……………戸 田 守 二 | 1 |
| さつない 札内川ダム施工計画……………原 田 輝 雄 | 3 |
| 首都高速湾岸線鶴見航路橋基礎工事の施工……………入 山 潔 | 11 |

グラビヤ——鶴見航路橋基礎工事

| | |
|---|----|
| 中部電力松ヶ枝ビル建設工事における地下連続壁の施工 ……………児 玉 和 彦・宮 田 圭 祐 | 19 |
| 福島空港用地造成工事の施工……………大 越 茂 俊・藤 田 保 雄 | 26 |
| シールド用セグメント自動搬送システムの開発 ……………出 口 種 臣・佐 藤 等・松 浦 幸 彦 | 32 |
| ◆随 想 太地喜和子の「出雲の阿国」……………竹 内 真 喜 雄 | 36 |
| 軟弱地盤改良工法（ディープ・バイプロ工法）の開発 ……………三 原 正 哉・隈 本 開 男 鶴 岡 龍 彦・末 広 修 三 | 38 |

◆'90 建設機械の現状

| | |
|---|----|
| 1. 土工機械 | |
| 1.4 スクレーパ……………中 山 武 夫 | 43 |
| 1.5 ダンプトラック……………三 宅 公 男 | 45 |
| 1.6 締固め機械……………遠 藤 徳 次 郎 | 48 |
| 1.7 路盤用機械 | |
| 1.7.1 モータグレーダ……………小 林 哲 夫 | 52 |
| 1.7.2 ロードスタビライザ……………大 橋 辰 夫 | 54 |
| 平成2年度1級・2級 建設機械施工技術検定学科試験問題（その2）……………試 験 部 会 | 56 |



| | |
|---|------------|
| ◆建設機械化技術・技術審査証明報告 歩道用小型除雪機（ヤンマー農機） | 63 |
| ◆新工法紹介 04-69 TOMS 工法／04-70 密閉式 ボックスシールド工法 | 調査部会 66 |
| ◆新機種紹介 | 調査部会 68 |
| ◆文献調査 新型積み運搬機／多機能エキスカベータ／ 鉄筋腐食検出器／油圧ドリル用ドリフタ回転ヘッド／ 新型ルーフボルト／ロサンゼルスにおけるゴミの自動 収集／ローダのためのバックハウアタッチメント | 文献調査委員会 73 |
| ◆整備技術 タワークレーンの安全先取り整備の成果 | 整備部会 77 |
| ◆統計 建設工事受注額・建設機械受注額の推移 | 調査部会 80 |
| 行事一覧 | 81 |
| 編集後記 | (小松・桑島) 84 |

◇表紙写真説明◇

JCB ロードオール 525

酒井重工業株式会社

本機は、英国JCB社が開発した多目的作業機で、今回酒井重工業が輸入販売を開始したものである。

その最大の特長は2,500 kg（最大持上げ重量）を6,780 mm（最大持上げ高さ）まで持上げ可能な強力なブームを装着していることである。

アタッチメント交換は、独自のQ'fit機構により、運転席から容易に行え、作業効率のアップを図

れる。オペレータの作業環境を重視して設計されたキャabinは、国際規格のROPSおよびFOPSもクリアしている。また全輪同サイズによる四輪駆動を標準装備し、スイッチ一つで3種類の走行モードを選択できるため、壁際や障害物がある狭い場所でも効率的に作業をこなすことができる。

＜主な仕様＞

| | |
|----------|--------------------|
| 機械重量 | 7,080 kg |
| 走行速度 | 0～28 km/hr |
| 搭載エンジン | パーキンス 1004 |
| エンジン定格出力 | 76 PS |
| 標準バケット容量 | 1.0 m ³ |
| 最大持上げ荷重 | 2,500 kg |
| 最大持上げ高さ | 6,780 mm |